Plan news

プラン・ニュース ［2014 Spring］No.95



座談会

角田光代さん×金原瑞人さん×西田佳子さん
～「わたしはマララ」出版記念～

スーダン
女の子たちが活躍する
「女子教育クラブ」レポート

紛争に巻き込まれた子どもたちに必要な支援とは？

子どもと築く、未来のしくみ

Plan
プラン・ジャパン

発行：公益財団法人プラン・ジャパン

『わたしはマララ 教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』

角田光代さん×金原瑞人さん×西田佳子さん

刊行記念トークセッション

女子教育の大切さを訴える活動を続け、16歳でノーベル平和賞候補となったマララ・ユスフザイさんの手記、『わたしはマララ：教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』(学研パブリッシング)の出版を記念して、2013年12月7日、東京・紀伊國屋書店新宿本店にて、トークセッションを開催。出版元であり、プラン・ジャパンの長年の支援者でもある学研グループの協力を得て実現しました。訳者のお二人と、パキスタンでの女子教育プロジェクトの視察を終えたばかりの角田光代さんがマララさんやパキスタンの女子教育の問題への想いを語ってくださいました。



左から金原瑞人さん、西田佳子さん、角田光代さん。トークショーのあとサイン会を行いました

角田さん　11月にパキスタンに行ってきたのですが、これまで視察した地域と比べると、ちょっと問題が見えにくかったんですね。パキスタンの政府としては女子教育を認めているのに、女の子が学校に行けない現実がある。とらえ損ねた感じで帰ってきたのですが、この『わたしはマララ』を読んで、わかったことがいっぱいありました。

西田さん　私も、翻訳を始めるまではパキスタンのことをほとんど知りませんでした。「こういうことが起こっていたのか」と、訳しながら知った次第です。

角田さん　感覚的にとらえにくい問題もいっぱいありました。たとえば、パキスタンで女の子たちにインタビューすると、誰もが口にするのが学校までの距離のこと。距離が問題になるということがよく理解できなかったのですが、「遠いって、どれくらい?」と聞くと、「徒歩20分」。その距離すら、「女が一人で歩いている」、ましてや「学校に行くために歩いている」ということが奇異に映るから、男性が揶揄したり、すごくからかったりするんですね。

　初日にプラン・イスラマバードに行ったときも、「夕方6時以降は絶対に出歩くな、女一人で歩くな」と言われるわけです。イスラマバードは都会なので実際に歩いている女性はいるんですけれども、前提として「女性は夜に出歩かないもの」ということがあって、それを徹底させられたのが印象的でした。

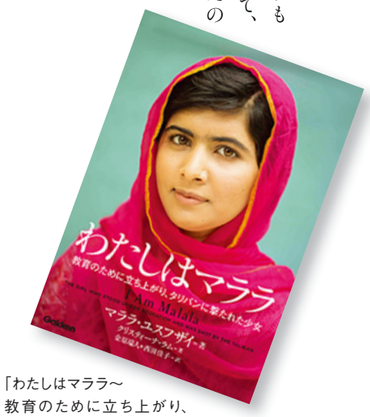
タリバンが存在する背景を知る手助けにもなる本だと思います

角田さん　この本を読んで怖いと感じたのが、タリバンが洗脳していくのに、ラジオを使うという話です。最初はラジオの人気DJみたいな形から入って、どんどん人の心をつかんでいく。その有様というのが、パキスタンという国を理解するのにも役立つのではないかと思いました。

西田さん　マララさんのお母さんも字が読めなくて、最初のうちはそのラジオ放送のファンだったんですよね。コミュニティの外にもあまり出ないし、情報も入ってこないなかで、まわりに同調していってしまうのは理解できます。

金原さん　そこがリアルに描かれています。もちろん、マララさんは批判的に見ているんですが。

　不思議に思ったのは、マララさんは怖がらないんですよね。次々に学校が爆破されているなかで、平気で学校に行っているし、自分のやりたいことを主張する。あの強さはなんだろう?



「わたしはマララ〜教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女〜」
発行：学研パブリッシング

西田さん　ひとつには、お父さんが筋金入りの活動家で、信念の人だということ。親子の間も、愛情が深いし、同志としてのきずながあります。普通の女の子ではないですね。

金原さん　最年少でノーベル平和賞の候補者になって、受賞はできなかったけれど、CNNの番組で、「I deserved it. もらって当然よね」と言ってますよね。

西田さん　あの答えの前には流れがありました。「もし、私がこのまま活動を続けていって、たくさんの子どもたちが教育を受けている姿を見て、私が実現したのよと言えるときがきたら、I deserved it」と言ったんです。

　さらに言うと、「自分としてはもっと大きな賞が欲しい」と。その賞というのは、ノーベル賞のように形のあるものではなくて、すべての子どもたちが平和に暮らして、教育を受けている姿を見ること。それがいちばん欲しい賞なんだと言っていました。素晴らしいと思いました。

角田さん　日本では、学校に行けることがまぁ普通なので、マララさんが言う「教育が大事」ということがわかりづらいかな、と思うんです。

　でも、この本を読むと、ラジオを聴くしかなくてどんどん心を乗っ取られていくという状況では、教育が武器になるのに、なければ丸腰になってしまうということが、シンプルな言葉で書かれています。教育はなぜ必要なのかということを、もう一度、考えさせられました。

西田さん　マララさんがパキスタンに帰れるといいなと思いますね。彼女は、パキスタンの首相になりたいと言っているんです。

角田さん　パキスタンって、イスラム社会のなかではじめて女性首相が生まれた国なんです。だから、ものすごく矛盾しているんですよね。女性の政治家がすごく多いというのも聞いたし、現状とのギャップがすごく大きいと思います。

ついこの間まで日本にも女子教育への無理解があった。「わかる」「知る」を大事にしたいと思います

角田さん　日本でも、女性が差別されてきた歴史は長いですよね。男女雇用機会均等法も最近のことだし、「女性だから」と差別されることを肌で知っている。その理不尽さが、感覚的にわかるんです。その「わかる」というところから、この問題に関わっていけるかなと思います。

金原さん　男が偉いという社会は、まだ僕らの世代までは残っていた。この本を読んでいると、そこに既視感がありました。日本も、だんだん女性に対する意識が変わってきていると思うんですが、この四月に法政大学の総長になる江戸学の田中優子先生は、うちで初の女性総長なんです。しかも、東京六大学でも初めてなにそれ?って思いました。

西田さん　ほんとうに変わっていくにはまだ時間がかかると思いますね。一世代、30年くらいはかかるんじゃないでしょうか。今回、翻訳をしていて、「知る」ということはほんとうに大事だなと思いました。あまり見たくない話もあるけれども、いろいろなことに目を向けていかなければならないと思います。



Profile

Mitsuyo Kakuta

1967年神奈川県生まれ。1990年に「幸福な遊戯」で海燕新人文学賞を受賞しデビュー。その後『対岸の彼女』(直木賞)、『八日目の蝉』(中央公論文芸賞)、『ツリーハウス』(伊藤整文学賞)、『紙の月』(柴田錬三郎賞)など著書多数。近刊に、『私のなかの彼女』、『かなたの子』(泉鏡花文学賞受賞)など。プラン・ジャパンのマンスリー・サポーターでもあり、2009年に西アフリカ・マリ、2011年にインドを視察。『Because I am a Girl わたしは女の子だから』の翻訳も手がける。

Mizuhito Kanehara

1954年岡山市生まれ。法政大学教授・翻訳家。児童書やヤングアダルトむけの作品のほか、一般書、ノンフィクションなど、翻訳書は400点以上。訳書に『豚の死なない日』『青空のむこう』『国のない男』『不思議を売る男』『バーティミアス』『バーシー・ジャクソンとオリンポスの神々』『ジョン万次郎　海を渡ったサムライ魂』『さよならを待つふたりのために』など。エッセイに『翻訳家じゃなくてカレー屋になるはずだった』。その他、『雨月物語』『仮名手本忠臣蔵』など。

Yoshiko Nishida

名古屋市生まれ。東京外国語大学英米語学科卒業。英米文学翻訳家。訳書に〈キンケイド警視〉シリーズ、〈ミッシングパーソンズ〉シリーズ、『赤毛のアン』『小公子セドリック』『ホートン・ミア館の怖い話』『テラプト先生がいるから』『新訳　オズの魔法使い』『怪談　日本のこわい話』『花言葉を探して』など。

スーダン東部のカッサラ州では、貧困や文化的要因、宗教的価値観などから「早すぎる結婚」を強いられ、学校を辞めざるを得ない女の子がたくさんいます。そうした状況を変えようと立ち上がったのは、ほかならぬ同世代の女の子たちでした。今回は、プラン・ジャパン一般プロジェクトの支援で発足した10カ所の「女子教育クラブ」に焦点をあて、その活動をご紹介します。



人形劇で誰にでもわかりやすく説明します





文房具などの備品も到着して準備完了

女の子たちは、まず3日間のトレーニングを受けます

女の子が学校に通い続けるため 女の子たち自身がアクション開始!

～プラン・スーダンの「女子教育クラブ」～

プラン・スーダンの「女子教育クラブ」は、カッサラ州で2008年にスタートしました。活動に参加しているのは、学校に通う女の子たちと監督役の女性教師、そしてPTAの親や教師などです。

女子教育クラブが目指しているのは、親に女の子が教育を受ける権利を理解してもらい、10代の娘たちに結婚を強制するのをやめてもらうこと、そして、早すぎる結婚などで学校を辞めてしまった女の子たちに教育を再開してもらうこと。このふたつを実現させるため、女子教育の重要性を説き、早すぎる結婚が女の子の健康にも悪影響を及ぼすことを理解してもらう活動を行っています。

プラン・ジャパンの支援で新たに10のクラブが活動開始

プラン・ジャパンが昨年7月から支援を募っているスーダン「女の子の早すぎる結婚対策プロジェクト」の一部として、今年2月までにカッサラ州の10のコミュニティで新たな女子教育クラブが発足しました。すでに約150人の女の子たちがクラブに入り、州の教育省女子教育部の協力を得て3日間のトレーニングを受講。演劇、歌、人形劇などを使って、女子教育の重要性と早すぎる結婚の弊害を伝える方法を学びました。

トレーニングを終えた女の子たちは、監督役の教師や女子教育部のサポートを受けながらさっそく行動開始。学校や地域の人たちが集まる場所で、歌や劇を通じて啓発活動を行っています。また同世代の女の子たちとディスカッションしたり、家庭訪問をして親や学校を辞めてしまった女の子たちと話し合い、通学を再開するよう励ますといった活動も展開しています。活動に必要な文房具、人形、小型発電機などの備品はプランが提供し、今後は学校放送用の機材なども設置する予定です。

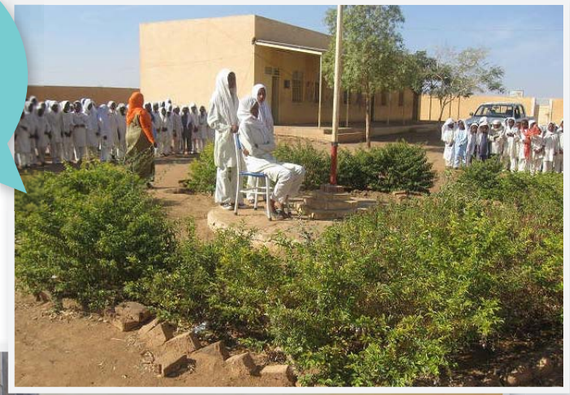
新しい女子教育クラブの活動は、すぐに効果が現れました。クラブが発足して間もなく、9人の女の子たちが学校に戻ってきたのです。今後も少しずつ、しかし確実に成果を挙げていくことは間違いないでしょう。

スーダン
Republic of the Sudan

スーダンのカッサラ州では、子ども／ユースクラブの一部である「女子教育クラブ」がおよそ100のコミュニティで活動しています。参加している女の子は約1200人。まだごく少数ではありますが、一部のコミュニティでは男の子も参加するようになっています。



演劇で早すぎる結婚について楽しく問題提起します





歌を歌って女子教育の大切さを優しく訴えます

プロジェクトの視察に行ってきました!

コミュニティの人たちに、楽しみながら女子教育について考えてほしい

冨田佳代 プラン・ジャパン　プログラム部
スーダン「女の子の早すぎる結婚対策プロジェクト」担当

カッサラ市内から、乾燥したサバンナを車で走ること1時間半、今回のプロジェクト対象地域のひとつであるオリブコミュニティに設立された「女子教育クラブ」を訪ねました。現地にはクラブメンバーをはじめ、多くの住民が集まってくれました。

最初にクラブメンバーが歌、ダンス、人形劇など、普段学校やコミュニティで実施している啓発活動を披露してくれました。女の子たちの発表を楽しそうに見る生徒や住民たち。このプロジェクトの目標は女の子の教育を促進し、早すぎる結婚をなくすことですが、まずはクラブメンバーとコミュニティ住民が楽しむことが大切です。女子教育クラブが、コミュニティで受け入れられていると感じました。

女子教育クラブに参加して積極的にみんなの前で話せるようになった子、クラブに入って新しい友だちができた子。みんな、クラブメンバーに選ばれたことを誇りに思っています。伝統的な社会規範が根強いこのコミュニティで、人々の意識を変えるのは簡単なことではありません。しかしコミュニティのリーダーや女の子自身が「女の子が教育を受ける権利」を信じ、啓発活動を続けていけば、少しずつ変化が見られるのではないでしょうか。プランは今後も、女子教育クラブの支援を続けます。



女子教育クラブのメンバーと記念撮影！

クラブメンバーの感想は？



クラブの活動は本当に楽しいです。勉強を続けて、将来はサファ先生のような先生になりたいです（ザファラさん／13歳）



前はみんなの前で話すのが恥ずかしかったのですが、今は歌や劇を披露するのがとっても楽しい。将来は大学に行ってお医者さんになりたいです（ゼナさん／13歳）

学校に戻ってきた女の子は？



学校に通う意義がわからず辞めてしまいました。両親も何も言いませんでした。でもある日、クラブのメンバーが家に来て、学校に戻るよう強く勧めてくれました。今は勉強を続けて卒業したいと思います。両親も応援してくれています（アイシャさん／13歳）

クラブ関係者の反応は？



最初にクラブに興味のある女の子を募り、その中からクラブの活動に適していると思われる子を選びました。クラブの活動を通じて彼女たちは積極的になり、自分に誇りを持つようになりました。そんな彼女たちの姿は、他の女の子にもとてもよい影響を与えています（クラブ担当のサファ先生）

娘がクラブに参加できて嬉しく思っています。彼女はそこで学んだ知識を私たちにも教えてくれます。私たちは女の子が教育を受けることに賛成です。このような活動を支援してくれたプランには感謝しています（クラブメンバーの両親たち）

プロジェクト担当者からひとこと

女子教育クラブの発足で教育環境は少しずつ好転しています
エスマット職員　プラン・スーダン
「女子教育クラブ」プロジェクト担当



高い貧困率に文化的慣習と宗教的価値観が重なって、カッサラ州では長い間、女の子が教育を受ける権利が否定され続けてきました。しかし2008年にプランと地元自治体が協力して女子教育クラブを発足させてから、学校に通う女の子の数も増加してきました。中には早すぎる結婚などで学校を辞めた女の子が戻ってくるケースもあります。近年では子どもたち、特に女の子たちの教育を重視するコミュニティも増えてきています。これは厳しい貧困のせいで女の子を早すぎる結婚へと追いやっていた過去から、徐々に決別しつつあることの表れだと思っています。

「紛争に巻き込まれた子どもたち」に必要な支援とは？

世界には、さまざまな苦難に直面している子どもたちがいます。その中でも特に深刻な状況に置かれているのが、「紛争に巻き込まれた子どもたち」です。数十年前と比べると、紛争の性質も変わってきている中、こうした子どもたちに必要な支援とはどのようなものなのか、そして支援を確実に行うために重要なことは何か、プラニーとともに考えてみましょう。

イラスト／西島尚美



Q1 世界の紛争の現状はどうなっているの？

紛争の数は、冷戦終結後の1990年代前半をピークに減少しています。しかし近年の紛争は国家間の「戦争」よりも、たとえばシリアのような「内戦」が圧倒的に多いのが特徴です。また南スーダンのように、一旦終結しても数年以内に内戦状態に戻ってしまうケースも少なくありません。戦闘は民間人が暮らす市街地や農村地域でも容赦なく行われ、非戦闘員であるごく普通の人たちが犠牲になる割合が激増しています。このような状況で、いちばん苦境に立たされているのは、やはり子どもたちです。



内戦で避難を余儀なくされている南スーダンの人々

Q2 子どもたちはどのような被害に遭っているの？

国連によると、現在、紛争の影響を受けている国・地域に暮らす子どもの数は10億人以上にも及びます（※1）。過去10年間に紛争で亡くなった子どもは200万人以上、重傷を負った子どもも600万人にのぼります。一方、これまでに100万人の子どもが家族から引き離されたり、孤児となってしまったりしています（※2）。強制的に兵士にさせられたり、暴力的なデモ活動やテロ行為に加担させられる子どもや若者も数多くいます。また、こうした被害を免れても、紛争によって家族を失ったり、家を破壊されて避難民になったりします。そして、保健衛生や教育の機会といった基本的社会サービスへのアクセスが難しくなります。さらに性的搾取や精神的トラウマ、障がい、病気などの危機にさらされる可能性も増大するのです。



子どもたちはさまざまな危険にさらされる

※1　2009年ユニセフの発表による　※2　2008年「世界ガールズ白書」より

Q3 紛争に巻き込まれた子どもたちにはどんな支援が必要ですか？



緊急支援の給水所に集まる南スーダンの子どもたち

紛争が進行中の国や地域では、やはり緊急支援が急がれます。プランも南スーダンで食料、水、衛生用品等の支給や、教育再開支援などを行っています。エジプトに避難したシリア難民については、Q2のような被害に遭わないよう、子どもの保護活動等の準備を進めています。一方、紛争下の緊急支援と同じくらい重要なのが、紛争終結後のさまざまな支援。子どもたちの心のケアや、若者たちの職業訓練といった未来のための支援です。しかしこうした支援には、紛争地域ならではの難しい問題がいくつも降りかかってきます。

Q4 紛争地域を支援する難しさとは？

現地に実際に赴いて行う支援活動では、地元のパートナー団体との協力・連携が不可欠です。しかし紛争地域では、そのパートナー団体の選択が大変難しいのです。特定の偏った組織や宗教、武力勢力や反乱分子等に加担していないかを、慎重に見極めなければなりません。また、先に述べたように内戦は数年以内に再発する危険性が高く、支援活動中、急激に現地の情勢が悪化することもあります。情勢が悪化すれば支援活動に携わるスタッフの安全も脅かされるため、ここでも非常に難しい判断を迫られます。

Q5 プランはどんな基準で判断を下していますか？

まず第一に、どんな状況でも中立、公平、独立を守り通すことがプランの基本理念。これを念頭に置きながら、地域の歴史、抱えている問題や利害関係、紛争に至った経緯などを綿密に調査し、系統立てて分析することを重視しています。そしてこうした調査・分析をもとに、慎重に現地パートナー選びを進めています。また、紛争の再燃などで現地の情勢が悪化した場合には、スタッフの安全を最優先に考えながらも、できる限り支援活動を続けるよう努力し、そのための準備も入念に行っています。



子どもの保護について学ぶスリランカの人々

Q6 プラン・ジャパンの支援活動は？

プラン・ジャパンでは現在、プラン・マンスリー・サポーター支援の中で、スリランカ、南スーダン、カンボジアでプロジェクトを進めています。約30年にわたる内戦が終結したスリランカでは、戦闘地域となった東部州で、子どもたちが社会に復帰するための教育と子どもの権利保護に取り組んでいます。南スーダンは長い内線の末、2011年にスーダンからの独立を果たしましたが、今度は内戦が勃発。緊急支援が実施される状況の中で現地に踏みとどまり、若者の未来のための「就職・起業支援」活動を進めています。カンボジアは内戦で多くの人材を失い、復興が立ち遅れています。学校での給食支援を通じ、子どもたちの栄養・衛生状態の改善と教育を受ける環境を整え、次世代の人材育成に努めています。



職業訓練中の南スーダンの若者たち

プラン・マンスリー・サポーターでは、紛争に巻き込まれた子どもたちへの支援を進めています

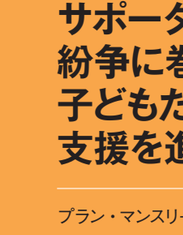
プラン・マンスリー・サポーターが取り組む５つの社会問題のひとつが「紛争や災害に巻き込まれた子どもたち」。現在、次の３つのプロジェクトが進行中です。

スリランカ「子どもの保護とケア及び地域社会への復帰支援」



戦闘地域であった東部州バッティカロア県で、紛争に巻き込まれた子どもたち２万6,000人を対象に、保護者を失った子どもの保護、就学適齢期に奪われた教育の再開、心のケアを行い、地域社会への復帰を支援します。また、子どもの権利保護への啓発を推進することで、新たな虐待の発生を防ぐことを目指しています。

南スーダン「若者への就職・起業支援」



長年にわたる紛争で十分な教育を受けていない中央エクアトリア州、ジョングレイ州の若者たちへの就職支援。17～25歳の若者約1,200人、および教師などを対象に、職業訓練や就職・起業訓練を行っています。

カンボジア「学校給食を通した子どもの栄養改善」

独裁政権下で多くの知識人が殺害されたカンボジア。紛争終結から長い時が過ぎた今も復興を担う人材が不足し、保健・教育分野などの社会サービスが立ち遅れています。プランは国連世界食糧計画（WFP）と連携し、北部4州で約18万人を対象に支援を展開中。学校給食を通して栄養指導・栄養状態の改善を行うことで、子どもたちの学習環境を整え、次世代の人材育成を進めています。

※プラン・マンスリー・サポーターの資料請求・お申し込みは以下まで。

www.plan-japan.org
TEL: 03-5481-6100

ジェンダー平等を実現するために欠かせない
キーワードを知ろう

「女の子のエンパワーメント」ってどんなこと？

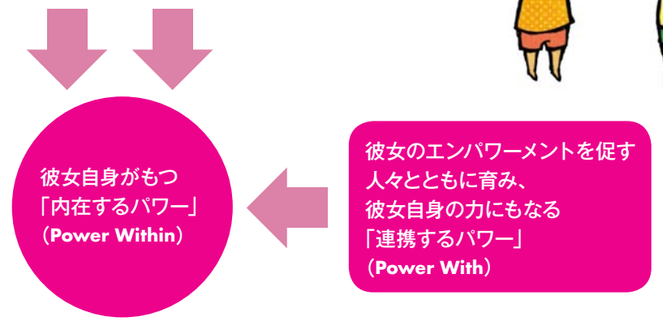
Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンの記事に、たびたび出てくる「女の子のエンパワーメント」というフレーズ。聞きなれない言葉ですが、プランが目指す「ジェンダー平等」を実現する、大きな鍵となる言葉です。今回は、プランが独自開発した教材「Planting Equality」のアクティビティで使う図を参考に、この「エンパワーメント」の意味について知ってみましょう。



Let's Try

アクティビティ
「女の子とパワー」

「女の子とパワー」の、この図を使って女の子をとりまく様々なパワーについて、考えます。さらに映像を見て、そこから４つのパワーの具体例をあげていきます。映像資料「女の子のサッカープロジェクト（ガーナ）」
https://www.youtube.com/user/planjapantv
を題材に、ディスカッションを進めます。



Q: 動画に現れる４つのパワーは何でしょうか？

●目に見える支配的パワー
- 女の子は、家、市場、あるいは畑で働くように‘できて’いる。
- 年長者たち（主に男性）が、女性や女の子たちの話を聞いたり、意見を検討することなしに、彼女たちに関わるものごとを決定している。

●目に見えない支配的パワー
- 伝統（‘我々の祖先’）が、女の子には教育は重要ではない、時間の無駄であると決めつけている。

●内在するパワー
- プロジェクトは女の子たちが自然に学校に戻る動機づけとなっており、誰かからの押しつけではなく、彼女たち自身の選択で学校に行っている。
- 日ごろ運動することによって、女の子たちは身体的に健康になり、教室でも精神的に活発になる。

●連携するパワー
- サッカーは女の子が集まり、教育や健康について話し合う場を生み出している。
- 女の子たちはサッカーの試合を家族や地域の人々が集まる場として、また女の子たちの問題についての意識を高める場として活用している。

プラン・ニュースでもときどき使われている「エンパワーメント」。実は、日本語にするのが少し難しくて、そのまま「エンパワーメント」と表記することもありました。

プランでは、この言葉の定義を定め、「パワーとは人が自分の人生と環境を形作るための能力」とし、「パワーの欠如こそ、女の子と女性が自らの権利を行使したり、貧困の連鎖から逃れたりすることを妨げる大きな障壁のひとつである」としています。そして、それを「エンパワーメント戦略で克服することができる」と考え、女の子をエンパワーメントすることを活動のひとつに位置づけました。

いま、困難な立場に置かれている女性や女の子をエンパワーメントするとは、『女の子の財産を構築し、女の子が自分の将来に関する選択を行えるようなパワーを強化し、女の子の自尊心と、「自分の人生は自分で決める」と言う信念を育むものである』と定義しています。

「パワーとは何か」を正しく知ることが第一歩

「Planting Equality」には、この「パワー」を正しく認識するアクティビティ「女の子とパワー」があります。

自分に対して行使されるパワー、自分自身が行使するパワー。パワーには大きくこの２つの側面があり、さらにそれぞれを２つに分けることができます。右ページのイラストは、その４つのパワーを図にしたもの。日常生活において、さまざまな形で影響するパワーを知り、具体的に女の子の生活にどのように表れてくるかを知ることは、エンパワーメントを促進する重要なステップです。

では、女の子に作用するパワーが人生にどう影響するかを次のアクティビティで学びましょう。

主体性と関係性、社会構造３つが揃うことが大事

「エンパワーメントへの旅」というアクティビティでは、女の子のエンパワーメントの道のりを３つのコースで表すイラストが出てきます。ここで明らかにしていくのは、主体性や関係性、社会構造が、どのように女の子のエンパワーメントに関連してくるのか、ということです。

イラストからは、女の子自身の「主体性」だけに委ねるのではなく、まわりの人との「関係性」、政策などの「社会構造」のいずれにおいても変化が必要で、３つがそろってはじめてエンパワーメントが持続可能であることが読み取れます。

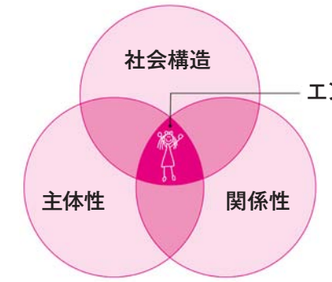
ＢＩＡＡＧキャンペーンをはじめとする女の子をエンパワーメントする活動は、女の子たちの〝主体者としての自覚〟を育むこと、エンパワーメントを支える〝連携〟を作り出すこと、そして社会の仕組みをも変化させていくこと、この３つの分野で支援することが必要なのです。

Let's Try

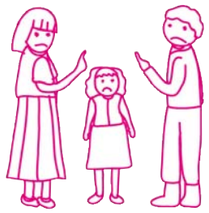
アクティビティ
「エンパワーメントへの旅」

「女の子のエンパワーメント図解」を使って、女の子のエンパワーメントの３つの道のりをたどります。

Q: 女の子の「主体性」、女の子の個人的な「関係性」、「社会構造」の3つの要素と、エンパワーメントにはどんな関わりがありますか？



「主体性」とは女の子自身の気づきや行動、「関係性」とは両親やまわりの人の態度や理解、「社会構造」とは地方行政や政策、習慣などを意味します。３つの領域でそろって働きかけを行うことで、エンパワーメントは実現します。





女の子クラブに参加したことで、彼女の主体性は増した

女の子クラブでリーダーシップを学び、周囲から女の子として期待される





しかし、家族は彼女が声を上げたことで彼女を罰した

両親は彼女が意思決定に参加する権利があることを理解し、彼女の意見を聞こうとする。そのため彼女の個人的な関係性が改善した

女の子はリーダーシップや自信を身につけ、自分の将来について自分で選択を始める（主体性）。両親は彼女の意見と意思決定への参加を応援している（関係性）。女の子が参加しやすい発言の機会が地元行政によって与えられ（社会構造）、地域の課題について意見を述べることができる

彼女は自分の意見を言うことをやめるようになり、あるいは両親からさらなる虐待を受けるかもしれない。

しかし、社会構造（地元行政）が彼女に発言の機会を与えない。彼女は家族からの応援は感じているが、社会参加を制限する政策や習慣に落胆することになる







出典「Planting Equality Component6, Plan International」

Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンの一環として、昨年４月から実施された第１期「プラン・アカデミー」は、12月の第８回で終了しました。しかしその後もメンバーたちは、積極的に交流やアクションを続けています。

撮影／ウシオダキョウコ



昨年 12 月の第８回アカデミーでは、受講者に修了証書が授与されました

第1期「プラン・アカデミー」終了！

～ともに学び、語り合ってきた参加者たちのアクションは現在も進行中！～



メンバー全員が BIAAG のＴシャツを着て、特別授業開始！

※６月より、第２期プラン・アカデミー（全８回）が始まる予定です。参加申し込みなどの詳細は、14 ページをご覧ください。

受講を終えた第１期生たちが意欲的なアクションを展開中

第１期プラン・アカデミーの参加者たちは、昨年４～７月の前半４回で、ジェンダー平等についての理解と知識を深めました。そして９～12月の後半４回では、同じ興味や関心を持つ人同士で６つのグループを作り、ジェンダー問題をアピールするアクション計画を作成。12月の最終回で、各グループがプレゼンを行いました。

参加者が全員集まるアカデミーは月１回の開催でしたが、メンバーたちはそれ以外にもＳＮＳ等で連絡を取り合い、あるいはグループで集まってミーティングを重ね、それぞれに意欲的なアクションを作り上げました（具体的なアクション内容については表を参照）。そして最後にメンバー一人ひとりに修了証書が手渡され、アカデミーは無事終了となりました。

各グループはアカデミー終了後も作業を続け、今年に入ってからは、実際のアクションがスタートし始めています。たとえば「女子高校生向け授業グループ」は、世界の女の子たちの状況や、女子教育の重要性などを伝える全３回の特別授業を企画。２月下旬、埼玉県立春日部女子高校、外国語科１年の生徒たち約40人を対象に、１回目の授業を実施しました。

クイズ形式を取り入れた授業は大変盛り上がり、生徒たちの反応も上々。若い世代の人たちに何かが伝わったと実感できる、素晴らしいアクションとなりました。今後も各グループ、そして各メンバーがアクションと交流を重ね、プランのよきパートナーとして活躍してくれることは間違いないでしょう。

プラン・アカデミー第１期生　今後のアクション予定

若い世代の教育

女子高校生向け授業グループ
「世界の女の子と私」というテーマで自分自身を見つめ直す特別授業を企画・実施。春日部女子高校で引き続き実施することを検討中。

若い世代に向けた開発教育グループ
世界や日本にも存在する男女格差などについて学ぶ、全３回の授業を企画。高校生を対象に、授業の実施を目指しています。

調査・研究

誰にでもわかるジェンダー・ギャップ・レポート（GGR）グループ
世界経済フォーラムが発行している GGR をわかりやすく解説。第２期プラン・アカデミーの資料とすることも検討中。

メディアでのジェンダー不平等調査グループ
日本のテレビ CM に潜むジェンダー不平等について、大学生と意見交換し、さらにアンケート調査も行って結果をまとめます。

情報発信

ジェンダー問題への認知度向上グループ
途上国の女の子たちが学校に通えない状況を、同世代の子どもを持つ日本の親たちに知ってもらうためのアニメーション動画を制作。YouTubeで公開。http://www.youtube.com/watch?v=LMeID9s6tAI

小冊子を活用した情報発信グループ
かわいらしい絵・写真と文章で、途上国の女の子たちの状況を伝える「ZINE」（小冊子）を制作・販売。売り上げの一部を寄付する予定。

※アクションの実施報告は順次ウェブサイトに掲載していきます。





生徒たちは真剣に話を聞き、活発に議論して、授業を実りあるものにしてくれました

クイズ後はちょっとしたプレゼントも！



最後はもちろん、クラス全員で「Raise Your Hand!」

継続的な支援を視野に、活動に賛同する企業が増えています

プランの活動をご支援くださる企業から、「パートナーとして、ともに」という言葉をいただくことが増えました。今回は２つの事例をご紹介します。

CASE 1 シチズン時計

レディスブランド「シチズン xC（クロスシー）」を通じて Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンを支援

昨年 11 月から、クロスシーの売り上げの一部を寄付する形で BIAAG キャンペーンにご支援いただいているシチズン時計株式会社。シチズンブランド事業部戦略企画部の吉岡洋子さんにお話を伺いました。



xC の 2014 年春夏用最新広告

吉岡さん　クロスシーはアクティブに社会で活躍する女性に向けて、１９９６年に誕生した女性専用ウォッチブランドで、chic、charming、creative をキーワードにしています。男性社員が多いシチズン時計ですが、開発チームの主力メンバーは女性です。

――今回、プランをパートナーに選ばれた経緯は？

吉岡さん　シチズンホールディングスから CSV（※Creating Shared Value）活動の提案があり、そのなかにプラン・ジャパンの名前があがっていたのですが、ちょうど同じ頃、ＢＩＡＡＧキャンペーンの広告を地下鉄車内で見かけたんです。

衝撃的なコピーに、ぐっと心をつかまれた気がしました。担当役員もたまたま同じ広告を目にしていて、「次世代を生む女性への支援が世界や人の課題解決につながるという考え方は、シチズンが目指す方向に一致する」と、スムーズに支援が決定しました。社名のシチズンには、「市民＝この世界のあらゆる物事を良くできると信じる人々」という意味がこめられています。

――活動の開始まで、スピーディーに進んだと伺っています。

吉岡さん　はい。あまりのスピードの速さに、社内のメンバーもびっくりしていたくらいです。

当初、社内の男性からは、「どうして女性だけを支援するの？」という声もありました。また、「男性は弱いものを守るべき」という考え方から理解を示す男性が多かったのですが、プランの方にも来ていただいてＢＩＡＡＧキャンペーンの内容を伝えるうちに、だんだんと「女性の支援がよりよい社会へとつながる」ということを積極的にとらえる方向へ変わってきたと感じています。

支援する２つの特別プロジェクト（「パキスタンの女子教育」「マリの早すぎる結婚対策」）を選定する際には、問題を理解するにつれ、「ここまで背負えるのか」という声もでました。ただ、課題は重いものですが、クロスシーは、美しい部分だけではなく、奥の深い問題も受けとめられる女性に向けたブランドです。ここは女性としても目を背けてはいけない、ということで選びました。

まずはウェブサイトや配布物などを通じてＢＩＡＡＧの活動をお伝えし、お客さまに、自然に受け止め、関心を持っていただく。その窓口になれればいいと考えています。

――プラン・ジャパンに期待することはありますか？

吉岡さん　今後は、継続した支援をしていくためにも活動の報告書を共有しながら、社員の理解を深めるすべを、一緒に考えていただきたい。というのが、期待するところです。



パキスタンの女子学校で学ぶ女の子たち

※企業の成功と社会の発展を企業の事業活動を通じて同時に実現しようという考え方

CASE 2

使わなくなったモノが、子どもの支援に役立ちます！

不用品を宅配で送ると
買取金額が寄付になるプログラムです。

キャンペーンサイト
www.netoff.co.jp/plan

送って NETOFF　寄付できる　Plan プランジャパン　子どもと築く、未来のしくみ

ネットオフ株式会社は、『宅配買取から、世界を変える会社』というビジョンに基づき、本、CD、服、バッグ、貴金属、携帯電話などの中古品をインターネットを通じて買取・販売している企業です。同社は、２００７年より中古品の宅配買取サービスと募金活動を組み合わせた「スマイル・エコ・プログラム」により、自然環境保護や途上国支援などさまざまな分野で活動しているＮＧＯやＮＰＯを支援してきました。

２０１３年７月からは、プランが途上国で進める子どもたちのための活動に賛同くださり、買取金額の全額をプラン・ジャパンに寄付するキャンペーンを実施。今回も、２０１４年５月31日までキャンペーン実施中です。

楽しく書こう！ チャイルドへのお手紙 アイディア大公開

プランのスポンサーシップの特徴である「チャイルドとのお手紙交換」。楽しみにしていただいている反面、「何を書けばいいの？」「忙しくて時間がとれなくて……」という声も届きます。そこで、今回は、チャイルドへのお手紙のアイディアを紙面でご紹介。プラン・オリジナル便箋や、ウェブサイトを使った発送方法もご用意していますので、ご自分にあった交流方法を試してみてください。

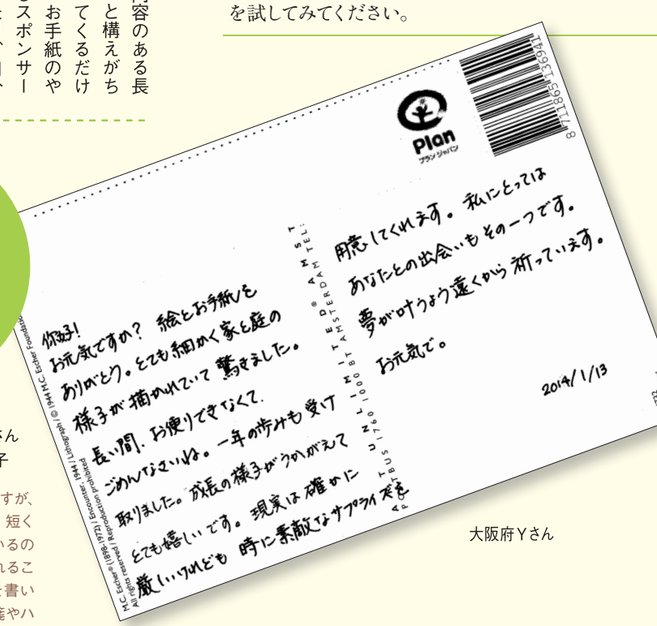
お手紙というと、内容のある長いものを書かねば…と構えがちですが、お返事が返ってくるだけでも、うれしいもの。お手紙のやりとりを楽しんでいるスポンサーたちは、質問をしてみたり、自分の暮らしや日本の文化を伝えてみたり、ときには家族の写真を同封してみたり、ちょっとした工夫をされていました。

短い文章でもやりとりを続けることで、気持ちを伝え、コミュニケーションをはかることができます。チャイルドを通してその国のことを知ることができ、またチャイルドは、スポンサーのお手紙を通して、いま置かれている環境以外の可能性を感じとることでしょう。

お手紙は、チャイルドにとって世界に開かれた窓のひとつ。オリジナル便箋や定型文などのツールも使いながら、ぜひ一言、あなたの言葉を届けてあげてください。

まずは、書き馴れたスタイルで

まずは書き馴れた日本語で書いてみましょう。お手紙は、翻訳ボランティアによって翻訳され、チャイルドの元へ届きます。見慣れない日本の文字は、チャイルドの関心を引き出すかもしれません。



大阪府Yさん

スポンサーの声

スポンサー歴：９年　愛知県Ｓさん
チャイルド：エクアドルの 16 歳の男の子

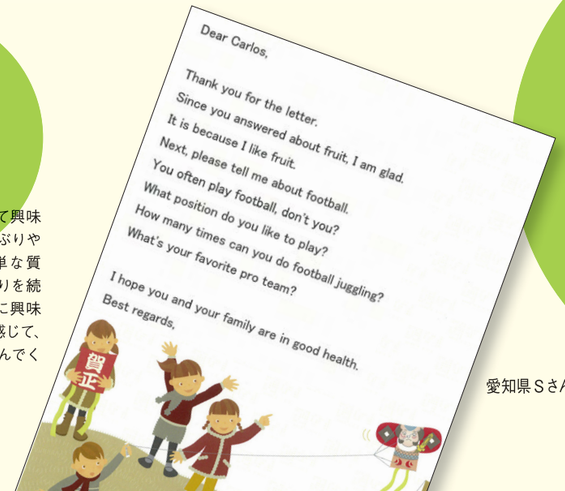
もらった手紙に対するコメントや「うれしい」という気持ちを表すこと、何かひとつは質問するようにしています。最初はご両親が手紙を書いてくれていたのですが、チャイルドが成長して自分でお手紙を書き、こちらの問いかけに返事をくれるようになったのが、うれしいです。まずは自己紹介や身近な出来事を書いたり、質問したりすれば、徐々にコミュニケーションになっていくように思います。

スポンサー歴：９年　大阪府Ｙさん
チャイルド：中国の 14 歳の男の子

始めは長い手紙を書いていたのですが、プランからのレポートなどを読んで、短く書くようになりました。今交流しているのは中国の子で、絵を描いて送ってくれることがあります。お返事に絵の感想を書いたりプランが用意してくれている便箋やハガキを利用して、イラストの季節の説明や、折々の日本の行事を紹介したりしています。あなたの国ではどうですか？と質問を添えるとその答えが返ってきて手紙のやり取りがさらに楽しくなります。

簡単な質問をしてみよう

チャイルドの写真を見て興味を持ったこと、暮らしぶりや家族のことなど、簡単な質問を書くのも、やりとりを続けるいい方法。「自分に興味を持ってもらえた」と感じて、チャイルドもきっと喜んでくれるはずです。



愛知県Ｓさん

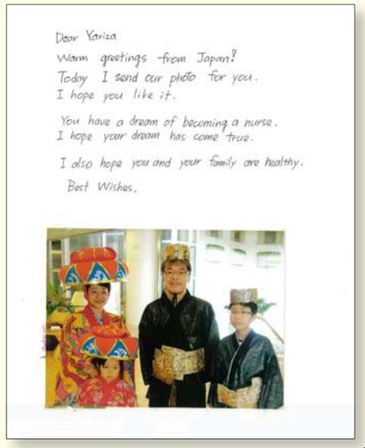
心を伝える手紙の小さな工夫

気づかいを感じさせるお手紙には、ほかにもこんな工夫がありました。「やりとりを続けることを意識して、シンプルに短く」が、お手紙を書くコツのようです。

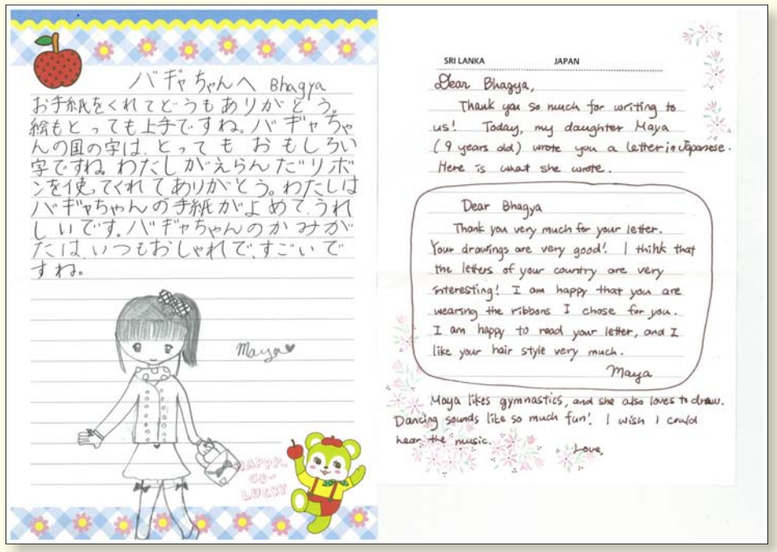
- チャイルドの質問に答える
- 絵や写真の感想を書く
- チャイルドの国の言葉で挨拶

家族のことも話題に

家族の写真やお子さんが書いたお手紙・絵を同封するスポンサーもいらっしゃいます。家族みんなでお手紙のアイディアを出し合うのも、楽しい時間になりますね。サイト上で写真を簡単に送る方法もご用意しています。



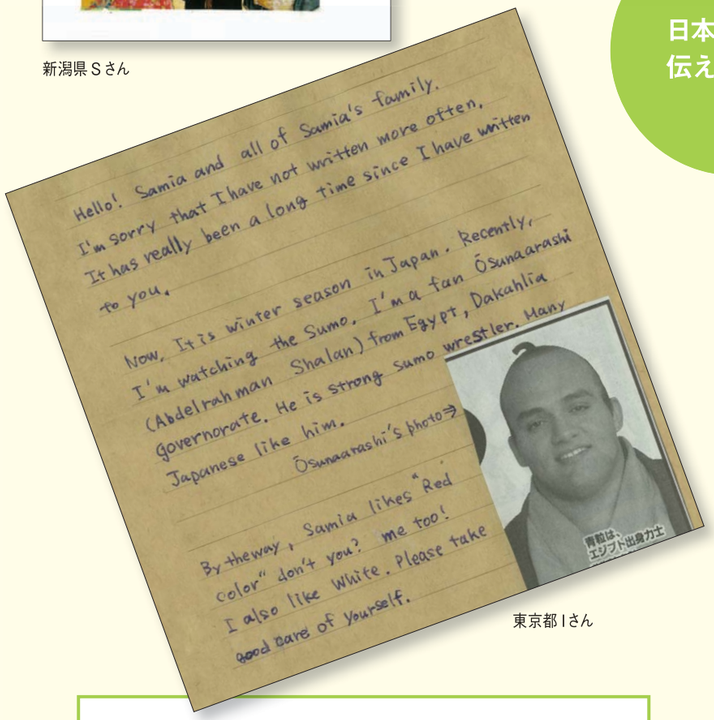
新潟県Ｓさん



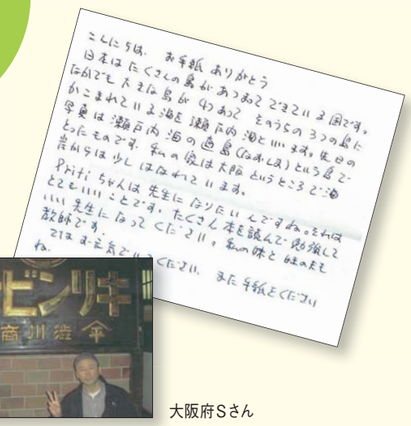
千葉県Ｈさん

日本のことを伝えてみよう

ご紹介した２つの例では、日本の四季のことや、日本の国土・気候、チャイルドの国出身のお相撲さん（！）について書かれています。写真やイラストを添えると、文章が書きやすく、伝えやすいですね。



東京都Ｉさん



大阪府Ｓさん

スポンサーの声

スポンサー歴：16 年　大阪府Ｓさん　チャイルド：インドの８歳の女の子

チャイルドが広い世界に関心を持ってくれるといいと思うので、「できるだけたくさんの本を読んで世界を知ってほしい」と言うようなことを書きます。また、日本の風土や四季、私の住んでいる大阪や住まいの近くの様子を簡単に紹介するようにしています。最初はこわごわと写真に写っていた子どもがだんだんと成長し、うれしそうな表情で写真に写ってくれていると、こちらもうれしいです。

スポンサー歴：７年　東京都Ｉさん　チャイルド：エジプトの 17 歳の女の子

つたないですが、英文で手紙を書いているので英語の勉強にもなっています。海外へ手紙が送られ読んでいただける、と想像するだけでワクワクします。手紙を書くときは、チャイルドの国の現状を知ること、宗教上のタブーなどに触れていないか確認すること、翻訳してくださる方が見やすいように書くことを心がけています。こうした交流の機会があることも、支援を継続しようという気持ちにつながります。

ウェブサイトの『チャイルドへの手紙』コーナーをご活用ください

プラン・ジャパンのウェブサイトには、チャイルドへのお手紙の書き方・送り方、英語と各国の言語の文例集などをお知らせするコーナーを設けています。自由に書き込めるオリジナル便箋、時間のないときに便利な定型文つき便箋も用意していますので、ぜひ、ご活用ください。

http://www.plan-japan.org/supporter/br/

Information* お知らせ

第2期「プラン・アカデミー」開講！ 受講生募集

Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンやジェンダーについてもっと詳しく知り、一緒に考えていける仲間を見つけたい――プラン・アカデミーは、BIAAG キャンペーン、およびジェンダーについて理解を深め、「知って」、「行動」するアクターを養成する「参加型」の連続講座です。単なる知識の蓄積や理解にとどまらず、途上国支援やジェンダー問題に対する発信源として、仲間と一緒にできることを考えてみませんか？

【実施期間】
2014 年 6 月～ 10 月　平日 19：00 ～ 21:00、土･日曜 13:00 ～ 16:00（全8回）

【場所】
東京都・日比谷図書文化館（予定）
【定員】
30 名程度（応募者多数の場合は抽選）
【対象】
BIAAGキャンペーンやジェンダーに関心のある方
【受講料】
7,200 円（全講座分・予定）
【お問い合わせ先】
コミュニケーション部
TEL：03-5481-0030
FAX：03-5481-6200
Mail：advocacy@plan-japan.org

※プログラムの詳細や日程、お申し込み方法等については、4 月にプラン・ジャパンのウェブサイトおよび BIAAGキャンペーンサイトで公開します。


第 1 期「プラン・アカデミー」の様子

ユース・アドバイザリー・パネル ～初代メンバー大募集！～

子どもたちとともに地域開発を進めるプランでは、組織をあげて意思決定に対するユース（高校 1 年生～ 24 歳の若者）の参画を進めています。今回プラン・ジャパンでも、事業計画策定・意思決定などの際に事務局や役員にアドバイスするユースの集まり、「ユース・アドバイザリー・パネル」を立ち上げることとなりました。応募受付は 5 月 20 日（火）まで（必着）。応募要領などの詳細は、プラン・ジャパンのウェブサイトをご覧ください。

【お問い合わせ先】
経営企画室
TEL：03-5481-7180
Mail：youth@plan-japan.org

映画『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』を上映する BIAAG サポーター募集！

これまでに開催された上映会では満席続出となっている大好評の映画『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』。BIAAG サポーターになって、皆さまの地元で上映会を開催しませんか？　上映の際には、途上国の現状やプランの活動を広めていただくと同時に、途上国の女の子への寄付を募っていただきます。説明グッズや募金箱など、キットをご用意しておりますので、お気軽にお問い合わせください。なお、映画の次回上映は5月 25（日）八王子、6月8日（日）岡山となっています。詳しくは 15 ページの「伝言板」をご覧ください。



映画のナレーションは、メリル・ストリープなどハリウッドの名優たちが担当

【お問い合わせ先】
コミュニケーション部
TEL：03-5481-0030
Mail：event@plan-japan.org

BIAAG キャンペーンの広報チラシ配布にご協力ください！

BIAAGキャンペーンのチラシを置いて、広報活動にご協力くださる方を募集しています。たとえば、お勤め先で募金箱と一緒に受付に設置したり、主催のイベントで配布したり。BIAAG キャンペーンの活動をより多くの方に知っていただくために、皆さまのご協力をお願いいたします。ご関心のある方は、下記までぜひお問い合わせください。

【お問い合わせ先】
コミュニケーション部
TEL：03-5481-0030
Mail：library@plan-japan.org


店舗のカウンターなどに置いてくださる方、ご協力お待ちしています！

書き損じはがきキャンペーン 2014 が終了しました！

皆さまからお送りいただいた書き損じはがき、今回は約 2 万 4,000 枚のはがきが集まり、94 万 6,517 円の寄付金となりました。ご協力いただき、まことにありがとうございました。次回もご協力いただける学校等を募集予定ですので、引き続き、よろしくお願いいたします。


昭和女子大学
ボランティア委員会の皆さん


南山大学短期大学部
伊東研究室の皆さん


宮城学院女子大学 LAC 国際
支援活動 Triangle の皆さん


明治学院大学
ボランティアセンターの皆さん

プラン・ジャパン「年次報告」記載内容に関するお詫びと訂正
1 月にお送りした年次報告に誤りがありました。
以下のとおり、お詫びして訂正させていただきます。
○7ページ　プラン・ジャパンの 2013 年度
数字で見る一年　誤）補助金による支援　5 件　→　正）補助金による支援　8 件
○7ページ　プランの世界での 2013 年度　数字で見る一年
誤）職員（活動国、支援国、国際本部）　→正）職員（活動国）
※なお、次号「プラン・ニュース」の発行は 7 月中旬の予定です。どうぞお楽しみに。

Message board* 伝言板

各地の支援者の会からの伝言板

プラン名古屋の会「世界一大きな授業」W

- 日時：5 月 11 日（日）14：30 ～ 17：00
- 会場：名古屋市市民活動推進センター（名古屋市中区栄 3-18-1 ナディアパーク 6 階）
- 内容:今年も「世界一大きな授業」（対象:小学生以上）を開催します。どなたでも参加可能ですので、ご家族、ご友人を誘ってご参加ください。17：30 から有志による懇親会も予定しています。
  5 月 8 日（木）までに、下記までお申込みください
- 参加費：500 円
- 連絡先：安藤
  Mail：info@plan-nagoya.sakura.ne.jp
  TEL：090-8076-2278

第 9 回プラン岡山の会 W

- 日時：5 月 25 日（日）13：00 ～ 16：00
- 会場：きらめきプラザ 2 階 大会議室①（岡山市北区南方 2-13-1）
- 内容：プラン・ジャパン職員による活動報告。その後、職員を囲み交流会を行います。5 月 22 日（木）までに下記へお申込みください
- 参加費：500 円（ご家族、ご友人同伴でも同じ）
- 連絡先：直江
  Mail：plaoka0625@yahoo.co.jp
  FAX：086-252-1302

多摩 SP 会主催　映画『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』上映会 W

- 日時：5 月 25 日（日）14：00 ～ 16：00（開場 13：30）
- 会場：八王子市クリエイトホール 11 階 第 7 学習室（八王子市東町 5-6）
- 内容：映画の上映と、プラン・ジャパン職員による BIAAG キャンペーンの概要説明。恒例の参加者同士の交流もあります。皆さまのご参加をお待ちしております。お申し込みは下記へお願いします
- 参加費：500 円
- 定員：30 名（定員になり次第締切）
- 連絡先：世話人
  Mail：tama-web3@ngo-npo.org

プラン山陰の会 f

- 日時：6 月 7 日（土）14：00 ～ 16：00
- 会場：松江市市民活動センター 4 階 401 研修室（松江市白潟本町 43 STIC ビル）
- 内容:プラン･ジャパンの DVD 鑑賞、チャイルドへのカード作り、参加者同士の交流。17:00 から懇親会の予定。ぜひご参加ください。懇親会のみ6月5日(木)までに要申込
- 参加費：500 円
- 連絡先：岡川
  Mail：leafmoon804@yahoo.co.jp
  TEL：090-7774-3449

映画『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』上映会（共催：プラン岡山の会）

- 日時：6 月 8 日（日）14：30 ～ 16：30
- 会場：岡山県立美術館ホール（岡山市北区天神町 8-48）※会場に駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください
- 内容：プラン岡山の会が共催する上映会です。映画を観て、途上国の女の子の現状を一緒に考えませんか？　プラン・ジャパン職員が BIAAG キャンペーンの概要について紹介します。下記までお申込みください
- 参加費：無料
- 定員 200 名（定員になり次第締切）
- 連絡先：プラン・ジャパン　イベント担当
  Mail：event@plan-japan.org
  TEL：03-5481-0030

プラン広島の会「お手紙書き会」f

- 日時:5 月～7 月の第 3 土曜日(5 月 17 日、6 月 21 日、7 月 19 日）14:00 ～ 16:00
- 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ 2F または 3 F フリースペース（広島市中区袋町 6-36）
- 内容：チャイルドへの手紙書き。チャイルドと交流されていない場合でも大丈夫。プラン広島の会が交流しているチャイルドへ一緒にお手紙を書きましょう
- 参加費：無料、申込不要
- 連絡先：小村
  Mail: naokomura@kej.biglobe.ne.jp

第 19 回庄内・羽後プランの会

- 日時：7 月 13 日（日）13：00 ～ 16：30
- 会場：サンパル秋田（予定）（秋田市山王 7-3-1　秋田市文化　会館内）
- 内容：プラン・ジャパン職員による活動報告、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流。7 月 7 日（月）までに下記へお申込みください
- 参加費：500 円
- 連絡先：岩谷
  Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp
  TEL/FAX：0184-46-2018

※イベントの開催報告も掲載しています。ぜひご覧下さい。

Wウェブサイト fフェイスブック
上記アイコンのある会については
プラン・ジャパンウェブサイトから各会のページにリンク

トップページ→プラン支援者の方へ→
プラン支援者の会 www.plan-japan.org/supporter/plankai/

コミュニティ訪問レポート

スリランカ Sri Lanka

チャイルドとの交流がきっかけで スリランカという 素晴らしい国にも出会えました！

塩川忠恒さんは 1988 年、新聞広告でプランの存在を知り、スポンサーに登録。
いつかチャイルドに会いに行きたいとの思いから、
アフリカや中南米ほど遠くなく、東南アジアよりは距離がある
スリランカのチャイルドとの交流を希望しました。
ご夫妻で最初のコミュニティ訪問を行ったのは 2006 年３月。そして昨年７月、
今度は小学校５年生のお孫さんも連れて、再びチャイルドに会いに行きました。



ハルシャーニちゃんと孫のソウゴくんが握手。
次世代の国際交流も期待できそうです

教職を引退した後、妻と私は海外のいろいろな国を旅することにしました。最初の旅行先に選んだのは、私が 40 代の頃から交流を続けていたチャイルドたちの国スリランカ。当時はまだ政情が不安定で、私たちも初めて行く国だったので、このときはコミュニティ訪問ではなく大手旅行会社にツアーを手配してもらいました。

この旅で私たちは、スリランカの大自然とフレンドリーな人々にすっかり魅了されてしまいました。そして現在までに合計８回、スリランカを訪れています。最初のツアーのガイドだった男性など友人もでき、結婚式に呼ばれるほど親しい付き合いが続いています。

８回の旅のうち、念願だったコミュニティ訪問が初めて実現したのは、4 回目の旅のときでした。３人目（女の子は初めて）のチャイルドであるハルシャーニちゃんは当時まだ３歳。妻が抱っこしようとすると、すぐに逃げ出したことなどを懐かしく覚えています。

それから約７年半がたった昨年７月、８回目の旅として、私たちは再びハルシャーニちゃんに会いに行くことにしました。今回は彼女と同い年の孫息子も一緒です。友人の親戚の男性にドライバー兼ガイドをお願いし、まずは孫にスリランカを体験させる旅からスタートしました。世界遺産やゾウの保護施設、お茶の産地などを訪れた後、エッラという町に到着。翌朝、モナラガラにあるプランのオフィスでスタッフの方たちから説明を受け、いよいよハルシャーニちゃんが暮らすコミュニティへと向かいました。

実は彼女のコミュニティは、事情があって違う場所に引っ越していました。そのため前回よりも 30 分長く時間がかかって、ようやくお昼前に到着。するとすぐにお父さんが出迎えてくれ、続いて、すっかり大きくなったハルシャーニちゃんと感動の再会です。彼女は丁寧にあいさつをしながら、私たちにビタルという植物の葉とレディという布地をくれました。これはスリランカに昔から伝わる習慣で、最大限の歓迎と敬意を表すものなのだそうです。

その後は私たちから学用品等のお土産を渡し、お茶・お菓子・果物で歓待を受け、お互いの近況について語り合うなどして素晴らしい時を過ごしました。元気に成長した彼女の姿を見て本当にうれしく思いましたし、同い年の孫息子にとっても、大変貴重な体験になったのではないかと思っています。



２つのファミリーで記念撮影！
上は最初のコミュニティ訪問で撮影した1枚。ハルシャーニちゃんは泣き出しそう？

Plan news
2014 Autumn No.95

公益財団法人プラン・ジャパン www.plan-japan.org
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
TEL 03-5481-6100 FAX 03-5481-6200 service@plan-japan.org

Plan プラン・ジャパン